

これまでの検討委員会の振り返りと 今後の検討内容について

令和5年4月26日

これまでの検討委員会の振り返り

○ 第1回検討委員会における検討事項

- ・ 湖北医療圏におけるこれまでの検討経過について
- ・ 湖北医療圏の現状と課題について
- ・ 長浜市病院事業、日本赤十字社の取組等についてのプレゼンテーション

○ 主なご意見

- ・ 京都大学および滋賀医科大学は医師の働き方改革を進めていく必要がある。循環器内科については両病院に対して5~6人ずつ滋賀医科大学から派遣しているが、どちらの病院も医師1人あたりの勤務時間が960時間を超過している。診療科ごとに2病院に対して医師派遣することは難しいため、再編は必要である。
- ・ 2023年4月には2024年4月以降の診療科を決定し新体制で診療を暫定的に開始する必要がある。
- ・ 地域医療連携推進法人については、市立長浜病院、長浜赤十字病院間で検討・議論したが、困難であるという結論に至った。
- ・ 地方独立行政法人においては単に経営形態を見直すだけではなく職員の意識改革も同時に進めなければ効果は得られにくい。
- ・ 指定管理者制度においては、各病院における職員の帰属意識ではなく、処遇の観点の問題になる。

○ 第2回検討委員会における検討事項

- ・ 長浜市の地域医療ビジョンについて
- ・ 湖北圏域の医療提供体制の現状について
- ・ 長浜市病院事業が選択可能な経営形態について

○ 主なご意見

- ・ 急性期の完結率が高く、2病院とも非常にしっかり運営されている。地域医療構想調整会議における急性期を担うA病院、また経営形態がどうあるべきかという議論は混乱を招く可能性がある。他方で、医師の働き方改革は喫緊の課題である。入院患者が今後増加していく中で大きな混乱を起こさないよう丁寧に進めていく必要がある。
- ・ 診療科のマンパワーが確保されなければ医師の働き方改革に対応することができない。2病院に分散している診療科は集約する必要がある、再編は必要である。
- ・ 地方独立行政法人も指定管理者制度も単に経営統合したら全て上手くいくというような楽観視できるものではない。
- ・ 両病院の自助努力の中で地域医療が保たれており、代替りの病院もない中で経営統合の必要性について確認する必要がある。

湖北医療圏の現状
 ※湖北医療圏の特徴と課題は何か

病床機能再編の必要性
 ※なぜ病床機能再編が必要なのか

【具体的検討事項】

- 医療圏の現状
 - ・人口動態、患者推計、流入流出...
 - ・救急、在宅医療...
 - ・医療提供体制：施設数、病床数、医師数...
- 再編の必要性
 - ・人口減少と病床過剰
 - ・厚労省の医療政策
 - ・医師不足と働き方改革への対応

長浜式病床再編論
 (架空ABC病院先行)

病床機能再編の協議
 ※調整会議合意(A・B・C・D)はどの様になされたのか

【具体的検討事項】

- 病床機能再編のこれまでの検討経過
 - ・調整会議
 - ・両病院事業の協議
 - ・その他
- 医師派遣元大学との関係
 - ・両大学からの医師派遣状況
 - ・働き方改革に伴う病床集約要望

現実的なA・B・C・D病院
 ※地域医療に即した実態に基づく現実的なA・B・C・Dはどうあるべきか(各病院の役割と機能など)

【具体的検討事項】

- ABC病院の役割と機能のイメージ
 - ・特にBの位置づけ再検討(収益性も)
- ABC設定の裏づけデータ
 - ・急・回・慢の想定必要病床数
 - ・医療圏(+周辺)の救急患者数

AおよびBの選択(経営主体は別にして)
 ※AおよびB病院はどちらがふさわしいのか

【具体的検討事項】

- 医療機能比較
 - ・診療実績、DPC分析等
 - ・人員体制、専門医・専門スタッフ
 - ハード面(土地建物、設備・医療機器)

長浜式統合論(3-0 vs 0-3)
 医師確保、経営効率化に効果

3-0 vs 0-3 案
 ①独法による3病院一体経営
 ②指定管理の3病院一体的経営

【具体的検討事項】

- ・両病院事業の意向(委員会プレゼン資料等)
- ・その他

3-0 vs 0-3の妥当性
 ※大ナタを振るう必要があるのか?

原則に基づいた経営形態検討

公立病院の経営形態のパターン
 ①全部適用(現状どおり)
 ②地方独立行政法人
 ③指定管理
 ④民間譲渡
 ⑤地域医療連携推進法人)

【具体的検討事項】

- 経営形態の種類と特徴
 - ・各類型のメリット・デメリットは、それぞれの一般的課題は何か(特に②③)
- 移行時の一般的課題
 - ・制度面、体制面、その他
 - ・国等の財政措置
 - ・市の財政負担への影響

長浜市病院事業の経営状況
 ※経営実績・財務状況の良否は？、類似病院と比較した位置づけは？

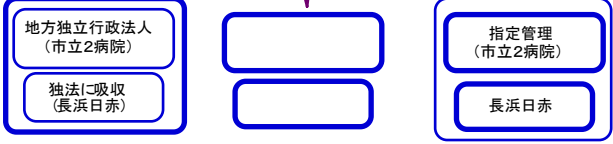
- 病院事業の概要と経営状況
 - ・病院概要、診療体制、組織体制
 - ・診療実績・経営実績・財務状況の推移(PL・BS・資金・借入)
 - ・繰入金・補助金の推移(市の財政負担)
 - ・経営分析と類似病院との比較

経営形態変更の他事例との比較
 ※一般的にどの様な状況下で何を目的に経営形態変更が行われて来たのか

- 他の経営形態変更事例との比較
 - ・経営形態変更のパターン・目的と多寡
 - ・経営形態変更前の経営・財務状況等
 - ・類似事例との比較

市立2病院経営形態の選択肢
 ※市立2病院の経営形態のあるべき姿は(=湖北3病院の経営形態のあるべき姿は)

- 公的医療の提供の視点
 - ・ABCそれぞれの病床機能の発揮
 - ・政策医療、不採算医療の実践
 - ・優秀な医師の安定確保
 - ・ふさわしい経営能力発揮の可能性
- 市の財政負担の視点
 - ・繰出し、投資、移行時のコスト
 - ・市のガバナンス発揮の可能性
 - 実現可能性
 - ・それぞれのメリット・デメリット、リスク
 - ・それぞれ乗り越えるべき課題



≪①3-0(3病院一体経営)≫ ≪②2-1(独法・日赤協力経営)≫ ≪③0-3(3病院一体的経営)≫

各病院のガバナンス・病床数・諸体制等

経営形態移行の手順・手続き